



2024年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月14日

上場会社名 株式会社リファインバースグループ 上場取引所 東
コード番号 7375 URL https://www.r-inverse.com
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 越智 晶
問合せ先責任者 (役職名) 経理財務部長 (氏名) 蓮池 智嗣 TEL 03 (6281) 4879
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2024年6月期第2四半期の連結業績（2023年7月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第2四半期	1,850	△20.2	35	△44.5	20	△53.4	15	△47.7
2023年6月期第2四半期	2,318	38.7	63	△4.1	44	43.3	29	△1.0

(注) 包括利益 2024年6月期第2四半期 15百万円 (△47.7%) 2023年6月期第2四半期 29百万円 (△1.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年6月期第2四半期	4.62	4.59
2023年6月期第2四半期	8.90	8.83

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年6月期第2四半期	3,576	125	2.0	21.27
2023年6月期	3,783	99	1.5	16.54

(参考) 自己資本 2024年6月期第2四半期 71百万円 2023年6月期 55百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年6月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年6月期	-	0.00	-	-	-
2024年6月期（予想）	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当該基準日における配当予想額は未定であります。

3. 2024年6月期の連結業績予想（2023年7月1日～2024年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,900	9.6	630	298.6	595	238.1	550	-	165.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年6月期2Q	3,338,421株	2023年6月期	3,338,221株
② 期末自己株式数	2024年6月期2Q	137株	2023年6月期	137株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年6月期2Q	3,338,227株	2023年6月期2Q	3,313,313株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

決算補足説明資料は、当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当社グループは、前連結会計年度に引き続き既存事業で徹底したコスト削減を進めながら、今後の成長の核となる新規事業領域の拡大に向けて、持続的な成長のための事業基盤の強化に努めてまいりました。また、SDGsやサーキュラーエコノミーの文脈において事業機会が相当数増加しており、事業化の取組みを加速しております。

素材ビジネスにおいては、当社の主力製品である再生塩化ビニルコンパウンド「リファインパウダー」の引き合いが前連結会計年度に引き続き好調なことに加え、2023年11月1日の日本リサイクルカーペット協会の設立に伴い、当社は同協会に参加しリサイクルカーペットの更なる普及に取り組んでおります。また、再生ナイロン樹脂「REAMIDE®」（リアミド）は、製品の高付加価値化を進めると同時に国内外を問わず外部企業等との連携や弊社技術のライセンス供与等の取組みも加速しており、今後は更なる収益・利益増加に貢献する見込みです。また、ソリューション事業においては、顧客の脱炭素に向けた取組みが加速しており、資源循環における当社グループのノウハウへの引き合いが増加しております。顧客企業からのコンサルティング受託、再資源化技術開発、ライセンス提供先への技術指導、設備設計業務受託などで収益源が拡大しており、ライセンス供与と併せて収益増加を見込んでおります。

資源ビジネスにおいては、組織再編によりオペレーションの見直しやリソース配分の最適化を行いながらDX化等を進めたことで生産性が向上しており、安定的に利益を確保しております。また、新規事業領域となる廃プラ資源化への取組みを加速し、既存事業での安定的な成長とともに収益基盤の強化に努めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,850,373千円（前年同期比20.2%減）、営業利益35,120千円（前年同期比44.5%減）、経常利益20,596千円（前年同期比53.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益15,415千円（前年同期比47.7%減）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

なお、記載のセグメント別の金額はセグメント間取引の相殺前の数値です。

① 素材ビジネス

素材ビジネスにつきましては、前連結会計年度に引き続きセグメント損益は黒字で推移しております。廃カーペットタイル受入処理量は堅調に推移し、廃カーペットタイルを再資源化した再生塩化ビニルコンパウンド「リファインパウダー」は、脱炭素の流れを受けて引き合いが増加しております。大口顧客の工場火災により一時的な受注減少があったものの、下期は減少分を加味した受注増を見込んでおります。また、自動車エアバッグの基布や廃棄漁網等を再資源化したナイロン樹脂「REAMIDE®」（リアミド）の高付加価値化を進めており、特にアパレルや成型パーツ向け等の複数の業界との取引の増加を見込んでいます。さらに、当社自動車エアバッグ基布リサイクル技術や廃漁網リサイクル技術の海外企業へのライセンス供与やライセンス先への技術指導等、収益・利益への貢献を予定しております。このように、当社のビジネスノウハウに対する引き合いは増加しており、収益機会が拡大しております。しかしながら、当四半期連結累計期間においては、REAMIDE®の高付加価値化へシフトする中で受注構成が変化しており、前年同期比で減収となっております。

この結果、売上高は619,126千円（前年同期比19.4%減）、セグメント利益は62,042千円（前年同期比44.2%増）となりました。

② 資源ビジネス

資源ビジネスにつきましては、組織再編によりオペレーションの見直しやリソースの最適化を進め、産業廃棄物処理事業で高水準の利益を維持しております。収集運搬・中間処理を一括受注できる体制と小回りを利かしたサービスを強みに営業活動を強化したことに加え、DX化・廃材処理バリューチェーン改革など顧客の収益性を高める取組みが功を奏し、原状回復工事の受注獲得を継続しております。また、ケミカルリサイクル用廃プラ供給の事業化や廃プラ資源化新商流の創出、新規事業領域となる廃プラ資源化への取組みを加速しております。しかしながら、当四半期連結累計期間においては、都内大型ビル竣工が第3四半期会計期間以降にずれ込んでいるため受注が低調となり、前年同期比で減収となっております。

この結果、売上高は1,261,421千円（前年同期比20.4%減）、セグメント利益は253,838千円（前年同期比9.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,541,944千円となり、前連結会計年度末（以下「前年度末」という）と比べ135,050千円減少しております。これは主として現金及び預金が70,673千円、受取手形及び売掛金が84,039千円減少したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は2,034,818千円となり、前年度末と比べ71,250千円減少しております。これは、主として有形固定資産が66,177千円減少したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は1,047,780千円となり、前年度末と比べ121,270千円減少しております。これは主として未払法人税等が54,205千円、未払消費税等が23,450千円減少したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は2,403,284千円となり、前年度末と比べ111,025千円減少しております。これは、主として長期借入金が88,730千円減少したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は125,697千円となり、前年度末と比べ25,995千円増加しております。これは、主として利益剰余金が15,415千円、新株予約権が10,201千円増加したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、788,844千円（前年同期比58.7%増）となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は105,945千円（前年同期に得られた資金は269,129千円）となりました。これは主として減価償却費110,060千円、売上債権の減少額84,039千円及び法人税等の支払額58,997千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出された資金は29,592千円（前年同期に支出された資金は321,036千円）となりました。これは主として有形固定資産の取得による支出30,004千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出された資金は147,026千円（前年同期に支出された資金は363,679千円）となりました。これは主として長期借入れによる収入150,000千円及び長期借入金の返済による支出252,066千円によるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年6月期の通期の連結業績予想につきましては、2023年8月29日の決算短信で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	872,955	802,282
受取手形及び売掛金	529,947	445,907
商品及び製品	163,359	186,640
仕掛品	30,905	36,860
原材料及び貯蔵品	44,466	46,865
前払費用	27,641	28,427
未収還付法人税等	7,217	1
その他	3,785	3,128
貸倒引当金	△3,282	△8,170
流動資産合計	1,676,994	1,541,944
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,267,349	1,266,350
機械装置及び運搬具	1,238,489	1,247,782
工具、器具及び備品	111,159	115,535
土地	520,100	520,100
リース資産	459,829	350,879
建設仮勘定	4,584	6,334
減価償却累計額	△1,697,065	△1,668,712
有形固定資産合計	1,904,447	1,838,269
無形固定資産		
	15,092	20,893
投資その他の資産		
投資有価証券	20,000	20,000
繰延税金資産	51,413	44,605
敷金及び保証金	123,002	120,138
その他	20,001	19,047
貸倒引当金	△27,888	△28,137
投資その他の資産合計	186,529	175,654
固定資産合計	2,106,068	2,034,818
資産合計	3,783,063	3,576,762

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	189,384	174,928
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	481,980	468,644
リース債務	71,316	68,934
未払金	95,358	93,376
未払費用	93,388	81,107
未払法人税等	62,898	8,693
未払消費税等	48,521	25,070
賞与引当金	3,868	2,940
受注損失引当金	13,224	14,883
その他	9,110	9,202
流動負債合計	1,169,051	1,047,780
固定負債		
長期借入金	2,204,074	2,115,344
リース債務	134,431	121,445
繰延税金負債	8,599	5,977
資産除去債務	156,653	157,114
その他	10,551	3,402
固定負債合計	2,514,309	2,403,284
負債合計	3,683,360	3,451,064
純資産の部		
株主資本		
資本金	160,196	160,385
資本剰余金	201,080	201,268
利益剰余金	△305,804	△290,388
自己株式	△251	△251
株主資本合計	55,220	71,014
新株予約権	44,481	54,683
純資産合計	99,702	125,697
負債純資産合計	3,783,063	3,576,762

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
売上高	2,318,059	1,850,373
売上原価	1,654,939	1,252,090
売上総利益	663,119	598,283
販売費及び一般管理費	599,840	563,162
営業利益	63,279	35,120
営業外収益		
受取利息	26	3
受取賃貸料	1,570	—
助成金収入	1,710	969
その他	3,306	649
営業外収益合計	6,614	1,622
営業外費用		
支払利息	14,577	15,146
減価償却費	5,614	—
開業費償却	3,936	—
雑損失	202	156
その他	1,321	843
営業外費用合計	25,652	16,146
経常利益	44,241	20,596
特別利益		
固定資産売却益	3,074	8,117
新株予約権戻入益	352	221
特別利益合計	3,427	8,339
特別損失		
固定資産除却損	6,758	1,605
特別損失合計	6,758	1,605
税金等調整前四半期純利益	40,909	27,331
法人税、住民税及び事業税	30,579	7,728
法人税等調整額	△19,148	4,186
法人税等合計	11,431	11,915
四半期純利益	29,478	15,415
親会社株主に帰属する四半期純利益	29,478	15,415

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	29,478	15,415
四半期包括利益	29,478	15,415
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	29,478	15,415
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	40,909	27,331
減価償却費	145,294	110,060
のれん償却額	24,427	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,330	5,136
受取利息及び受取配当金	△26	△3
支払利息	14,577	15,146
固定資産除売却損益 (△は益)	3,683	△6,512
新株予約権戻入益	△352	△221
売上債権の増減額 (△は増加)	58,807	84,039
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△28,617	△31,635
仕入債務の増減額 (△は減少)	△5,711	△14,456
未払金の増減額 (△は減少)	△14,978	11,723
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△11,537	△25,285
その他	85,512	△1,437
小計	313,319	173,883
利息及び配当金の受取額	26	3
利息の支払額	△16,146	△16,158
法人税等の支払額	△44,924	△58,997
法人税等の還付額	16,854	7,215
営業活動によるキャッシュ・フロー	269,129	105,945
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△18,000	—
有形固定資産の取得による支出	△71,998	△30,004
有形固定資産の売却による収入	3,156	10,612
無形固定資産の取得による支出	△408	△9,714
敷金及び保証金の差入による支出	△36	△655
敷金及び保証金の回収による収入	—	170
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△286,549	—
保険積立金の解約による収入	51,772	—
その他	1,027	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△321,036	△29,592
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	150,000
長期借入金の返済による支出	△318,625	△252,066
新株予約権の発行による収入	240	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	12,976	244
リース債務の返済による支出	△42,781	△30,448
割賦債務の返済による支出	△15,363	△14,756
その他	△126	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△363,679	△147,026
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△415,586	△70,673
現金及び現金同等物の期首残高	912,518	859,517
現金及び現金同等物の四半期末残高	496,932	788,844

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

前第2四半期連結累計期間（自 2022年7月1日 至 2022年12月31日）

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

新株予約権の行使による新株発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ6,755千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が159,630千円、資本剰余金が200,513千円となっております。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年7月1日 至 2023年12月31日）

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2022年7月1日 至 2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	素材ビジネス	資源ビジネス	計	
売上高				
外部顧客への売上高	733,710	1,584,348	2,318,059	2,318,059
セグメント間の内部売上高 又は振替高	34,653	300	34,953	34,953
計	768,364	1,584,648	2,353,012	2,353,012
セグメント利益	43,034	281,751	324,786	324,786

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第1四半期連結会計期間において、株式会社コネクションの株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「資源ビジネス」のセグメント資産が1,626,554千円増加しております。

3. 報告セグメント利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	324,786
セグメント間取引消去	1,383
未実現利益の調整額	1,748
全社費用（注）	△264,638
四半期連結損益計算書の営業利益	63,279

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

資源ビジネスにおいて、第1四半期連結会計期間において、株式会社コネクションの株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。当事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては464,126千円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年7月1日 至 2023年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	素材ビジネス	資源ビジネス	計	
売上高				
外部顧客への売上高	589,719	1,260,653	1,850,373	1,850,373
セグメント間の内部売上高 又は振替高	29,407	767	30,174	30,174
計	619,126	1,261,421	1,880,548	1,880,548
セグメント利益	62,042	253,838	315,880	315,880

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメント利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	315,880
セグメント間取引消去	5,382
未実現利益の調整額	△478
全社費用（注）	△285,664
四半期連結損益計算書の営業利益	35,120

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。